

## 深山第一砲台

深山第一砲台は、1890年代に加太に建設された5つの砲台の1つで、紀淡海峡防衛のために設置されました。幅11キロメートルのこの海峡は、日本第二の都市で主要な工業地帯である大阪や、重要な港である神戸へのアクセス、そして大阪湾への出入りを制御する戦略的に重要な場所でした。

砲台は3つのセクションに分かれています：各セクションには円形砲座が2座あり、合計で6門の大砲が置かれていました。これらのセクションの間には2つの地下弾薬庫があります。弾薬庫の後方にある狭いトンネルは、砲台と砲台を繋いでいます。

砲台は防御目的のため、レンガ造りの胸壁背後の丘の頂上に建設されました。稼働し

ていた当時、周囲に木々はありませんでした。正面の胸壁にある伝声管は注目すべき特徴の1つです。

大砲は、放物線の軌道で砲弾を上方に発射する短砲身砲、28 cm 榴弾砲でした。砲台は丘の上の高いところに設置されており、砲弾がより高い高度に到達し、より速く降下して最大の破壊力を発揮できるようになっていました。榴弾砲はいずれも残っていませんが、沖ノ島の野奈浦棧橋には榴弾砲弾1発が展示されています。

明治時代（1868-1912）に中国、ロシア、西洋列強からの潜在的な脅威に対抗するために建設されましたが、これらの砲台は実戦での砲撃をすることなく1914年に解体されました。